

成果報告書 概要

2012年度助成 (実践期間：2013年4月1日～2014年12月31日)

タイトル	みんなで守ろう！わたしたちの命・豊田		
所属機関	平塚市立豊田小学校	役職 代表者 連絡先	学校長 渡邊 剛 0463-31-1522

対象	学年と単元：	課題
○ 小学生	○ 「大地のつくりと変化」(6年)	教師の指導力向上を目指す教員研修、実験方法指導、教材開発
中学生	○ 「身近な自然観察」(3年)	
教員	「季節と生物」(4年)	子ども達の科学的思考能力の向上を目指す授業づくり、教材開発
その他	「植物の発芽、成長、結実」(5年)	ものづくり(ロボット製作等)による、科学分野で活躍する人材の育成
	「生物と環境」(6年)	
	○ 「光の性質」(3年)	○ その他



実践の目的：	本校で長年培ってきた理科・環境教育の取り組みを、「自分たちの命を守る」という視点で見つめ直していく。その中で、児童が「学ぶことが自分たちの命を守ることに繋がる。」「自分たちが考えていくと学校がもっと地域の命を守るものになる。」という意識を持ち、育んでいきたい。
実践の内容：	<ol style="list-style-type: none"> ① 6年「土地のつくりと変化」で地震の仕組みや災害について学び、児童が学校の減災・防災について考えていけるようにする。 ② 3～6年の生物の発生と成長の学習、及び環境の変化の学習を通して、食物連鎖の関係や生物の多様性の重要性について児童が実感できるようにする。 ③ 3～6年の太陽光を中心とした自然エネルギーの利用について詳しく学ぶ中で、児童が身近に活用したり、防災にも役立てようとする態度を育てる。 ④ 1～6年の栽培活動を通して、生命の大切さを実感できるようにする。
実践の成果：	例年取り組んできた活動に「命の大切さ」という視点を設定することで、児童が自分自身も含め、命を愛する気持ちが高まったこと。
成果として特に強調できる点：	<ul style="list-style-type: none"> ○発表会等で学習したことを校内だけでなく、地域の人々に発信できたことによって、地域の方も教育、防災に対する意識の高まりが見られたこと。 ○人間と自然が関わり合って生きていることを理解し、自然のもたらす恵みと驚異を感じ取っていた。また、児童が防災に対する必要感を持って活動が進められて効果的だった。

成果報告書

2012 年度助成	所属機関	平塚市立豊田小学校
タイトル	みんなで守ろう！わたしたちの命・豊田	

1. 実践の目的（テーマ設定の背景を含む）
2. 実践にあたっての準備（機器・材料の購入、協力機関等との打合せを含む）
3. 実践の内容
4. 実践の成果と成果の測定方法
5. 今後の展開（成果活用の視点、残された課題への対応、実践への発展性など）
6. 成果の公表や発信に関する取組み
7. 所感

1. 実践の目的（テーマ設定の背景を含む）

本校では地域からの協力を得て、長年理科・環境教育に取り組んでいる。この中で、「種は大切に世話をしなければ、芽が出ないし、育たない。」ことや「水田にはたくさんの生き物がいること」、「生き物は互いに関わり合っていること」など体験を通して命の大切さを学んできた。

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災を経て、より鮮明に「命の大切さ」を教職員が考えるようになった。それは、「まず自らの命を守る」という視点である。その中で本校の理科・環境教育の取組みを見つめ直すと、各学年で取り組んできたことが大いに役立つと感じた。また学びの主体である児童から見て、「学びが自分や学校の友達、そして地域の人たちの命を守るものにつながる。」と学習の目的が明確となり、意欲的に学習に取り組むことが考えられた。

このようなことから、「みんなで守ろう！わたしたちの命・豊田」とテーマを設定し、各学年で取り組む理科・環境教育の取組みをより充実するよう研究を進めていこうと考えた。

2. 実践にあたっての準備（機器・材料の購入、協力機関等との打合せを含む）

- 全職員で活動の進め方について検討。
- 校内環境部を中心に、栽培活動について年間活動計画を作成。
- 6学年の地震災害への減災・防災について考える取組みについて、市災害対策課と打ち合わせ。
- 5学年の「植物の成長」として、水田での米作りの観点から、地域の指導員、並びに全農営農技術センターと打ち合わせ。
- 3学年の「光の性質」について、ソーラークッカーの購入。
- 各学年学習記録用のデジタルカメラ整備。

3. 実践の内容

【学校全体としての取り組み】

本校では、地域の田んぼを借りて毎年1～6年生全員が米作り活動に取り組んでいる。児童全員が田植え、稲刈り、餅つきの体験を行うことで、植物の生命を尊重することや食物への感謝の気持ちを持たせることをねらいとした。また、理科や総合的な学習の時間の他に、5年生社会科の『食料生産を支える人々』の単元とも連動させ、日常的な世話や観察については地域の指導員の協力を得ながら、5年生が中心となって取り組んだ。

【低学年】

低学年では、生活科を中心に自然への気づきを大切にして学習を進めた。

1年生では、アサガオやチューリップ、トウモロコシの栽培活動を行った。「種まき」「世話」「観察」の仕方を身につけ、長期に渡っての変化の様子に気づかせるため記録カードを順に掲示し、いつでもふり返りができるような環境を整えた。

2年生では、1年生時に体験したチューリップ栽培の他に、トマト、キュウリ、ナス、ピーマン、大根、ほうれん草、小松菜など野菜の栽培種類を増やし、それぞれの成長の様子の違いを比べたり、年間を通しての栽培活動を取り入れて児童の植物への興味関心を高めたりした。

【中学年】

中学年では、自然を観察し、関わっていくことを中心に学習を進めた。

3年生では、理科『光の性質』を取り上げ、日光を集めたり、反射させたりしてものに当てると、明るさやあたたかさが変わることを観察することにより、自然のエネルギーの持つ大きさを感じた。自然の力を利用したソーラークッカーを使い、体験的に学習した。

4年生では、学校に隣接する畑を借りて、そばの栽培活動を行った。栽培準備から収穫までの活動内容や成長の様子を自分たちで調べたり、観察したりしながら活動を進めた。観察記録にはデジタルカメラを使用し、成長の過程をより正確に記録できるようにした。また、他の動物の命に目を向けさせることで、人間と自然との関わりに気づくようにした。

【高学年】

高学年では、命のつながりを学びながら、どのように地域や社会と関わっていくべきかを考えて学習を進めた。

5年生では、理科『植物の発芽と成長』での学習を活かして、年間を通しての米作りに取り組んだ。図書資料を使って米のことを調べたり、地域の農業協力者に指導を受けたりしながらその成長や世話の仕方を学んだ。さらに、学校田が無農薬であり、食べる人だけでなく、田んぼの生物の命も大切にしていることに気づかせていった。さらに、JA 全農営農技術センター見学の活動も取り入れ、食農教育を通して、生物多様性の大切さを学んだ。11月には、地域の方も参加した総合発表会で、自分たちの学習したことを紹介した。

6年生では、理科『大地のつくりと変化』で地震を中心に災害の起こるメカニズムを学習した。東日本大震災の体験から、防災という観点で、理科で学んだことを活かして総合的な学習の時間を利用し、防災への理解を深めた。市災害対策課と協力した起震車体験やHUG ゲームなど体験的な活動をより多く取り入れ、自分たちの身近な問題として捉えていった。学習したことがさらに深まるように市の避難所開設学習会に参加した。

【地域との関わり】

学校だけでなく、地域の自然の豊かさにも目を向けようと、PTA主催の「田んぼの生き物調査」が開かれた。学校近隣の用水路へ行き、そこに棲む生物を観察したり、食物連鎖の仕組みを学んだりした。児童とともに、保護者も参加したことで昔から変わることのない地域の環境をみんなで守ろうとする意識を高める効果も感じられた。

4. 実践の成果と成果の測定方法

本校では、長年地域の畑や水田を利用して植物の栽培活動を行ってきた。地域の自然や郷土を愛する心を育み、食べ物や命の大切さを考える態度を養うものとして捉えてきた。しかし、東日本大震災をきっかけに本校で培ってきた理科・環境教育を災害という観点から深めていけないだろうかと考え、本実践では、「水田」「畑」「災害」の3つの視点で活動を進めてきた。項目毎にそれぞれの成果を紹介する。尚、成果の測定方法については、「児童が調べたり、まとめたりした具体物」「児童のワークシートの記述や発表した感想」「教員や地域の方から見た児童の姿の変容」などで測定した。

○「水田」を活かした命を守る学習



学校全体で米作り体験を行っているが、特に年間を通して関わることの多かった5年生は、肥料蒔き・土作り・しろかき・田植え・ひえとり・たにしとり・稲刈り（鎌とコンバイン）・乾燥・脱穀（昔の機械と今の機械）・もみすり・精米など一連の活動を地域の指導員の方に教えていただきながら学習を進めることができた。自分たちの普段食べている米作りの苦勞を感じることができるとともに、農業に携わる人々の姿から自分たちの命を守る人々の存在を改めて実感することができた。また、成長の様子を観察する過程で、水中生物の多さにも気づき、調べるとそれらが関わり合うことで米ができていくことを知ることが

できた。たくさんの命の関わりがあって自分たちの命が成り立っていることに気づくことができた。また、冬には育てた米を試食したり、日頃お世話になっている地域の方へプレゼントしたりと収穫の喜びを味わうことができた。

○「畑」を活かした命を守る学習

1、2年生では、自分自身で植物の種をまいたり球根を植えたりして育て、変化や成長の様子に関心を持ち、それらの成長に気づくことができた。また、観察や栽培活動を通して、植物も自分たちと同じように生命を持っていることへの気づきは、親しみを持って大切に世話をしようとする児童の心情面でも大きく変化が見られた。4年生のそば作りでは、3年生まで体験した米作りとの違いを考え、「おそばはお米と違って3ヶ月で収穫できるなんてびっくりしました。」「お米やおそばをよく食べるけど、育て方に違いがあるなんて知らなかった。」などの感想が聞かれ、植物の多様性に気づくことができた。また、学習を進める中でそばを食べる天敵の存在を調べ、そばの命を守るためにかかし作りに取り組んだ。10月には台風や大雨により大打撃を受け、自然の力のすごさに直面し、災害と人間との関わりも考えることができた。

○「災害」を活かした命を守る学習



3年生では、学習の発展としてソーラークッカーによる太陽光エネルギーを利用した実験を行った。どんなことに使えそうか考える際には、単に調理だけでなく、災害時等に大いに役立つことを発見できた。また、災害をもたらすのが自然であると同時に、災害時に役立つのも自然であることにも目を向けて学習することができた。

6年生では、ボーリング試料をもとに自分たちの地域の地盤を調べたり、地域の協力を得て防災倉庫・避難所を調べたりしたことを11月の総合発表会で発表したことで地域からのリアクションもあり、地域全体を巻き込んだ防災意識の高まりが見られた。身近な地域の防災に取り組んだことで児童が「自分の家ではどうなっているのだろうか。」と各家庭に投げかけることができたことも成果として挙げられた。

5. 今後の展開（成果活用の視点、残された課題への対応、実践への発展性など）

- 「命の大切さ」を考えさせるためには、単元を絞って取り組んでみようと実践に取り組んできた。2年間の実践を積み重ねてきた中で、さらに実践単元の幅を広げられると感ずることができた。
- 児童のめざす姿像をしっかりと持って、低学年から系統的に指導をする必要性を感じた。
- 校内の総合発表会において、学習したことを発表するなど児童だけでなく、保護者や地域の方にも多少なりとも広めることができた。また、学校へ寄せられた感想も多く、今後は校内だけでなく、地域のイベント等でも発表する機会を設けられるとさらに多くの人々に「命の大切さ」を発信できるものと信じている。

6. 成果の公表や発信に関する取組み

※ メディアなどに掲載されたり放送された場合は、ご記載ください

- 田植えの様子が紹介されました。（タウンニュース2013年6月13日号）
- PTA主催の田んぼの生き物調査の様子が紹介されました。
（タウンニュース2013年9月26日号、湘南ジャーナル9月27日号、神奈川新聞10月4日号）
- 稲刈りの様子が紹介されました。
（タウンニュース10月24日号、神奈川新聞10月22日号、湘南ジャーナル10月25日号）
- 餅つきの様子が紹介されました。（湘南ジャーナル2014年1月17日号）

7. 所感

東日本大震災からまもなく4年を迎えようとしています。想定をはるかに超えた被害の大きさでしたが、日頃から児童の防災意識を高める努力をされていた東北地方のある地域では、死者数が他と比較して圧倒的に少なかったとの情報を耳にしました。今後南関東でも大規模な地震の発生が予想される中、本校でも防災教育の取り組み強化を模索しておりました。

そのような中、平成25年度から日産財団より多大なる助成をいただき実践をすることができました。助成を得ることにより、教育環境の整備が可能になりました。本当にありがとうございました。今後も理科教育を中心とした、防災教育のあり方を職員全体で考えていきたいと思っております。

日産財団の皆様には、心より御礼申し上げます。ありがとうございました。